

第3回山のトイレを考えるフォーラム 2002年2月2日（北海道クリスチャンセンター） 討議内容まとめ

横須賀

まず、私達が整備水準案を考えたいきっかけについて話したい。
考える会のミーティングで、新たにトイレを設置しなければいけないところはどこだろう、ということ話し合った。
そこでは、日帰りできる山ではなく山奥の部分、トムラ南沼と美瑛富士避難小屋の2箇所があがった。
しかし、そこに建物を作ると、自然の雰囲気壊してしまう。特別保護地区でもある。
じゃあ作らないでいいかという、糞尿で汚染されるのは目に見えている。トムラについて言えば、短縮登山口開通による利用者急増という問題もある。
矛盾が生じた。トイレを作るべきか作らないべきか、何を判断基準にすればいいのか。そこで、愛甲さんの整備水準案が必要ではないか、ということになった。
このことについて、意見があればぜひ聞きたい。参考にさせてほしい。

佐久間（大雪）

地図上のゾーニングと実際の登山者の意識レベルとのズレが結構ある。
本来一番レベルの高い原始的な地区のはずなのに、そこに行く人の多くは普通のツアー登山であり、快適さを求めている。
建物を建てるかどうかということもあるが、登山者への啓蒙も重要なポイントだと思う。

愛甲

そういう現象も明らかに起きている。トムラ短縮登山道はまさにそんな状態だろう。
最近改めて日本百名山を読み返してみたが、深田さんが登った頃と現在とでは状況が全く変わっている。
日本百名山を読んで山に登った人は、深田さんの登った山に登りたいのか、山の名前だけに惹かれているのか。そのへんが大事だと思う。
深田さんは、トムラを2泊かけて登っている。時代によっても、登山者のレベルによっても考え方は変わってくる。
私が大事にしたいのは「その場所らしさ」。ここはこういう山なんだ、という認識。
その山の持っている雰囲気、環境をできるだけ壊さないようにしたい。そうしながら利用できれば理想ではないか。

横須賀

愛甲さん、トムラはレベル3にあたるか？

愛甲

非常に意見が割れると思う。
私は、今はレベル3にはあたらないと考えている。現状ではレベル2、もしくは1。
ただ、私が「こうあってほしい」と望む姿は、レベル3と2の中間くらい。
水準案を全部の山に当てはめられるとは限らない。札幌近郊の山などでは、レベル2ぐらいまでしかないかもしれない。
レベル3を求める人は、大雪か日高に行く。北海道全体で考える必要がある。

横須賀

利用者数の増加やキャンプ地の拡大が問題だ。日高のカムエクはひどかった。カムエクなどはレベル2になってしまうかもしれない。
でも、日高全体で見ると、北海道らしい自然が残っている。ずっとレベル3であってほしい。
大雪はレベル2あたりだと思う。
会場のみなさんは、トムラについてどう思うか？（⇒会場では、レベル3であってほしい、というひとが多かったが、レベル2という人もいた）
ここの意識のズレをまとめる作業が大変だ。

山口

少し混乱した。現状のレベルがどうなっているかという話なのか、理想的にどのレベルで利用したいかという話なのか。

現状はレベル2か1だと思う。将来は「はるかなるトムラウシ」、レベル3にしたい。レベル3にしたいとすると、短縮登山道はヤメ、などのアクションが出てくる。

上井

過激な意見だが、私も、短縮登山道閉鎖には賛成だ。

山のトイレ、公園を考えるに際し、業者のことも考える必要がある。

大きな視点で総括する会、ネットワークができてほしいというのが、私達の理想だ。

各地域で、調査、アンケート、催しなどの機会をもって、地元の人たち、山岳会、行政も含めて意見交換したい。

今日も様々な人たちが来ているので、意見を聞きたい。

岩村

愛甲さんの水準案を聞いて、トムラ・カムエクなどどのレベルになるのかと考えていた。

現実には、レベル3にあたる場所は、ヤオロマップ、1839くらいしかないのでは。ほとんどが、レベル1・2だと思う。

あの山はこうあってほしい、というのは私ももっている。

自分はカムエクに行きたい、でも行ったらたくさんのテントは見たくない、というわがままなことを私も考えている。

佐久間さんのように、ガイドを職業としてやっている人は、初心者、初級者がカムエク・トムラに行っていていいのか、ということはどう考えるのか。

そういう話になったときには、仕事から困る面もあるだろう。

極論で言えば、「初心者は初心者の山に行きましょう。体力のある人はカムエクに行ってください。

そのかわりテントとか全部自分で担いでいって、持っていったものは全て担いで下ろす。それができない人は行ってはいけません」というくらいの踏み込んだ考え方が必要なのではないか。

昔と比べると、北海道の山のほとんどは、オーバーユースの状態だ。

横須賀

岩村さんは、日高幌尻をレベル1と考えている。これも人によって違う。レベル3という人もいる。

どのように考えればいいのか。

知床からの報告にもあったが、この公園全体はどのようにあるべきなのか、ということ整理する第一段階だと思う。

遠山（知床）

知床では、現行の自然公園法ではできないことになっている立ち入り規制について検討している。直接的には、知床岬地区など。

羅臼岳についてみると、オーバーユースの状態になっている。

水準案に当てはめると、本峰だけピストンするのであればレベル1かもしれないが、縦走するのであれば、その区間はレベル3になる。

そんなことについて、具体的な検討が知床でも必要だと思う。

登山利用のあり方、利用が保全管理へ与える影響について、地域での具体的な論議が必要だ。

石森（日高）

幌尻がレベル1といわれているが、確かに1のときもある。渇水期のときなど。でも、いつ天気が急変するか分からない。

ツアー客の中には、四の沢の滝にも気付かない人がいる。

日高に住んで30数年になるが、日高の山はそんなに甘い山ではない。

何をもちいてレベルを決めるのか。時期にもよる。

経験や体力が不足していたり、意識の低い人が多い。ただ「百名山」というだけで登りに来る人が多い。

ガイドにとっては生活の糧だから、多くの人に登らせたい、という気持ちもわかる。でも、時期によ

って危険が異なることも認識してほしい。

百名山を登る人は、日高の山を軽視する傾向がある。98登ったから山のベテラン、ということにはならない。

道の資格制度も問題だ。資格をとったからいい、すべて安全というものではない。

小樽の登山者の方

これまでの話は、自然を愛する人たちの意見だと思う。

今日は、「トイレをどうするか」の話だと思う。私はそれを聞きにきた。

どうすれば、ローインパクトな登り方になるのか。

私は、携帯トイレをどのように普及させるか、ということだと思う。

行政や業者によって、登山口に回収ボックスを設置すること。児童など、様々な人に使えるような携帯トイレをつくること。そういうような働きかけが必要だと思う。

どうすれば携帯トイレを普及できるのかを討論したい。

愛甲

私の話はトイレと離れたかもしれないが、こういう考え方もあるということを知ってもらえれば、と思って話した。

一番やらなければいけないのは、地域の自然環境をよく調べて、それに合わせてレベル分けすることだと思う。

携帯トイレの話をしてみようと思う。どう普及させるか、ということは大きな課題だ。

北海道の報告でもあったが、13年度は、配布した数に比べて、回収した数が非常に少なかった。

ただアンケートをみると、半分近くの人が今後も使いたいと思っている。

利尻では早くから携帯トイレの取り組みが進んでいるが、携帯トイレが捨てられるということも起きている。

佐藤（利尻）

利尻でも、回収率が抜群によいわけではない。

配布の方法にもよる。利尻では、宿で無料で配布しているので、みんな気軽に持っていく。

意識が高い人の中には携帯トイレを自分で買って使っている人もいるが、この問題を知らない人にかに訴えかけるか、ソフトの開発が重要。

宮本（利尻）

携帯トイレの投棄が目につく。

持って帰るのがいやだ、というのも大きな原因だが、

一番気になるのは、「携帯トイレを配ったから、仮設ブースを設置したからいいじゃないか」という感じがすることだ。

仮設ブースが1つだけだと、（混雑時など）待ちきれなくて、仮設ブース以外のところでトイレをしてしまう人が多い。そして、携帯トイレを置いてきてしまう。

行政は、1人のトイレに何分かかるか、ということまで考えて設置しているのか。

ただ配ればよいというものではない。

横須賀

同じ話が上川でも起きている。

黒岳石室前にトイレブースを設置した。しかし、トイレがあれば、トイレブースを使わずにみんなトイレを使う。

岩村

携帯トイレにはいろんな問題があるのも事実。携帯トイレが全てとも思わない。いろんな考え方があっていい。

ただいえることは、このまま放置していたら悪くなる一方だ、ということだ。

これまでほとんど知られていなかった携帯トイレが、急速に普及すると考えるほうがおかしい。

地味でもいいから、地道に一人一人がこの問題について周りに広めていくことが重要だと思う。

最初からすべていくわけではない。少なくとも方向として、携帯トイレは使わざるを得ないだろう。

トイレを設置する数は少なくてもいい。日高には間違ってもあってほしくないが、南沼、美瑛富士など、最低限必要な所には作らざるをえないと思う。ガイドを生業としている方の責任は、非常に大きいと思う。快適な山にするためにはどうすべきか、という考えはもっていてほしい。ツアー参加する方に最低限これだけはやってもらう、ということをはっきり打ち出してほしい。

佐久間

受益者負担は原則だと思う。

携帯・設置トイレの維持管理には金がかかる。ボランティアでまかなうのは不可能。

おとし、白雲で汲み取りをやった。このとき、400万円かかった。非常に大変な作業だった。

その晩、白雲の小屋番の方2人と話したが、400万あったら、3人で山分けして毎日ウンコおろしたほうがいい、という結論になった。

ヘリコプターは、費用対効果がかなり低い方法だと思う。ある程度お金を出せば、やる人（担いでおろす人）はいると思う。

お金をどうやって捻出するかが問題だ。「大雪山清掃社」を作ってそこに道からお金を出してもらうとか、トイレの使用料や携帯トイレを売ってお金でまかなう方法もあるのではないか。

藤川（道庁）

白雲岳のトイレは、貯留式でなく浸透式。

20年くらいたっているんで、結構固まっている。バキュームでは、固形物は吸いあがらない。それで、水で溶かして攪拌しなければならなかった。

予算をとったときは人力による担ぎ下ろしも考えたが、水で溶かすと重くなるので、これには限界がある。それで、ヘリコプターを使うことを考えた。

横須賀

浸透式のトイレでは自然にどれくらいのインパクトがあるのか、そうしたことについてはっきりしたデータはない。まずその前提も必要だと思う。

アンケートなどでは、山上へのバイオトイレ設置を希望する声も多い。しかし、多くの方は、寒冷地でバイオトイレがどれくらい機能するかを分かっていない。

登山口にバイオトイレを設置するなどして試験的なデータをとって、その上でどういうものを配置するのがよいかという話ができる。

ただ、今の段階で400万を使うなら、もっと効率的に使えないかという思いはある。

携帯トイレ配布とトイレ設置が並行して進むなら、トイレをピーク時において、ピークが過ぎたらヘリでおろして、そのときに汲み取りもする。このような、400万を有効に生かすような方法も課題だと思う。

愛甲

「大雪山清掃社」の考えは面白いと思う。

空沼岳登山口のトイレをどうするかという話があった。設置することはできるけど維持管理まではできないので登山者でうまくやってもらえないか、という話だった。

万計山荘や平取のように、登山者で団体を作って管理をしている例もある。

中根君が、全道の山岳会にアンケートを配って、活動状況を調査した。約6割の団体から回答があったが、回答団体の6割が、山岳地管理に関して何らかの活動をしていた。

一般の登山者でも、他の人が捨てたゴミを拾ってくる人は多いと思う。

このように、非常に多くのボランティアが山の中で活動している。その一方で、携帯トイレを無料で配って無料で回収しているのに、山の中に捨てられてしまう、ということもある。

そろそろ、自然公園でかかる費用、自分が自然を使った分の維持管理にかかる費用の負担を、登山者の側も本格的に考えなければいけない。

行政もそうしたシステムを作らなければいけない。このとき、NPO的な活動をしている人たちに資金配分できるようなシステムを作るべきだと思う。

今でもいろんな方がいろんな活動をしている。それに対してほとんど何の補償もない。

山岳会の活動も、高齢化の中で先行きが不安な部分もある。

費用の部分をどうやって解決するかについても、考えていかなければいけないと思う。